



バックナンバーは
こちらから御買い
なれます

Hokkaido community and school collaboration

地学協働

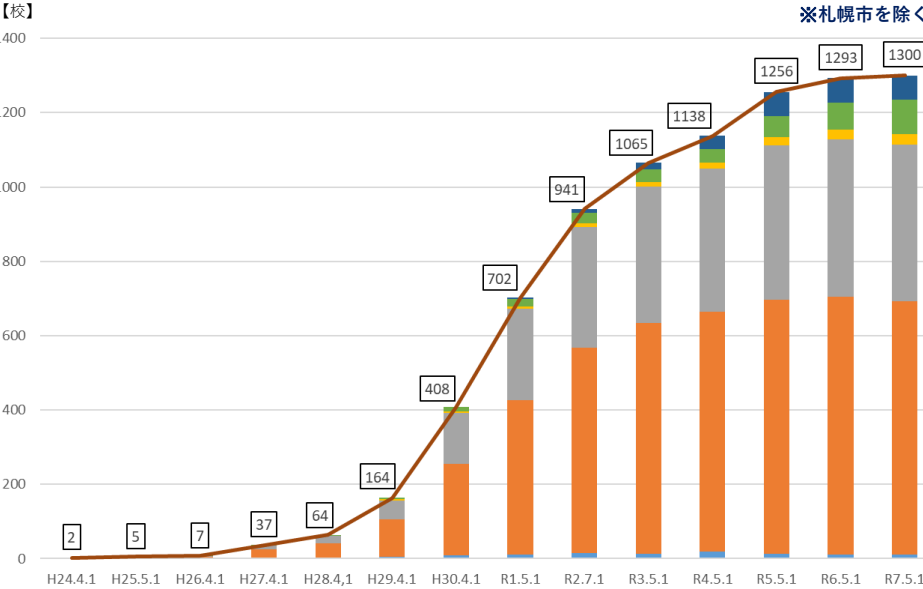
北海道教育庁生涯学習推進局社会教育課

2026年1月

No.40

1 全国調査からみる北海道の地学協働の取組vol.2

全道の公立学校におけるコミュニティ・スクールの数の推移



前号に続き、文部科学省「令和7年度コミュニティ・スクール及び地域学校協働活動実施状況調査」（令和7年5月1日現在の状況）から北海道のコミュニティ・スクール（以下、CS）の推移について報告します。

北海道は、各学校の統廃合が進む中でも、CSの導入は着々と進んでおり、全国（64.9%）と比べ、導入率は高い（+23.9%）といえます。

R8年度からは、教員の働き方改革を契機にCSの取組がますます重要になると考えられ、目指す子ども像や学校の課題を共有するためにも、CSで行われる『熟議』が有効だと言われています。下記に道内の顕著な事例を紹介します。

		幼稚園	小学校	中学校	義務教育学校	高等学校	中等教育学校	特別支援学校	合計	幼稚園を除く公立学校の設置率
R6.5.1現在	学校数	12	691	426	26	72	0	66	1293	87.3%
R7.5.1現在	学校数	12	680	421	29	92	0	66	1300	89.5%
	導入率	48.0%	97.2%			43.6%		100%	88.8%	

胆振管内安平町の地学協働の取組（視察報告）

胆振管内安平町の追分地区学校運営協議会では、年度当初に7回程度の日程を設定し、地学協働の取組を積極的に推進している。様々な立場の委員及びオブザーバーが所属していることから、ICTを活用した出欠確認やクラウド上の資料共有等、参加しやすい体制づくりに努めている。

12月上旬に行われた協議会は、プログラム（写真下）のとおり進行的。追分地区学校運営協議会は、毎回、積極的に熟議が行われており、今回は、国内の先進的な取組を行っている学校等の視察報告から安平町の目指す未来像や、各校長から示されたR8年度の学校経営の方向性について、委員及びオブザーバーがグループに分かれて活発に意見を交換する様子（右写真）が見られた。様々な立場の町民（高校生の参加もあり）が、終始安平町の子どもたちのために意欲的に質問や意見を交流する姿が大変印象的であり、熟議の有用性について改めて感じる場面が多く見られた。



グループに分かれての熟議の様子

第4回追分地区学校運営協議会プログラム

1. 運営協議会委員さんの先進校等の視察報告
2. 2～3月のスケジュールについて
3. R8年度追分地区の学校運営の方向性の説明
4. 熟議（前述1・3の内容について）

開催日：令和7年（2025年）10月15日（水）

開催地：【釧路会場】釧路市生涯学習センター「まなぼつと幣舞」

【十勝会場】十勝総合振興局

【根室会場】標津町生涯学習センター「あすばる」

主 管：釧路教育局

参加者： 52名

道東ブロックでは、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するため、行政、学校、地域学校協働活動推進員等の役割や取組について理解を深めることを目的に、校長経験のある教育局義務教育指導監、地域学校協働活動推進員（地学協働コーディネーター）による講演や各地域における課題や今後の取組について協議を行いました。

1 講演 「地域の状況に応じた取組の実際及び成果と課題について」

学校と地域の「つながり」づくりにむけて 北海道教育庁釧路教育局義務教育指導監 津田 裕匡 氏

4 これからの「つながり」づくりに向けて

- ☆ 参加者を～近隣校との合同開催
- ☆ 熟議の結果を学校経営にどう反映させるか
- ☆ 教育委員会、教育局のさらなるバックアップ
- ☆ 地域学校協働推進員等のありがたさ
- ☆ 児童生徒との共有
- ☆ 地域の潤い 活性化 WIN-WIN
- ☆ 地域の代表としての受信と発信

【主な内容】

- ・学校と地域が互いに対して、どのようなことを期待しているのか、両者の思いを熟議（対話）を通してつなぐことが重要。
- ・熟議の内容を学校経営に反映させるとともに、コミスクだより等で地域に発信して理解を広げていくことが、地域学校協働活動にもつながる。
- ・「子どもは地域の宝」。学校と地域が協働し、ともに学び合い、支え合う関係を築くことが、これからの教育の基盤になる。



高校生と地域の「つながり」から 北海道弟子屈高等学校地学協働コーディネーター 川上 棕輔 氏

教育現場に入って感じること

先生忙しすぎる・・・

学校内完結による限界（探究授業）

2年間で異動しちゃう管理職人（教員）に依存しがちなシステム

【主な内容】

- ・学校リーフレットやポスターの作成を地域人材に依頼。学習活動以外のクリエイティブな作業を地域移行することで、教員の業務軽減へ。
- ・学校の活動や地域の魅力を、生徒と一緒にYouTubeやInstagram等で積極的に発信。
- ・生徒が地域の大人や専門家とのつながりから、地域課題に向き合い、学校外の活動にも取り組み始めている。
- ・地域が学校の実情を踏まえながらも、「しがらみ」等にとらわれることなく意見を伝えていくことで、新たな価値への気付きや取組につながる。



2 協議 「みなさんDoしてます？ ～学校と地域の連携・協働のホンネ～」

参加者それぞれの立場における学校と地域との連携・協働の課題等について、今後の取組を明確にすることを目的として各会場でグループ協議を行いました。

【協議で出された意見（一部抜粋）】

- ・地域からの協力者を増やすために、学校のニーズや地域の思いを汲み取ることができる事務局づくり、活発な意見交換ができる会議が重要。
- ・社会福祉協議会のボランティア等、他の人材バンクを共有することがボランティア人材不足の解決になるのではないか（他機関との横のつながり）。
- ・有償ボランティアについて検討することもある必要ではないか。
- ・一般の教職員と熟議を実施し、現場の先生方の困りごとを聞きたい。



協議の様子（十勝会場）

【講 評】釧路市地域学校協働本部 総括的な地域学校協働活動推進員 森 敏隆 氏

今日、ネット利用に関わる問題等、学校と家庭が連携して取り組まなければならない課題が多い。地域や学校の課題解決に向けた話し合いができる場づくりが肝心です。



- ・学校や地域を「一緒につくる！」という意識を共有することが大切だと感じました。
- ・学校と地域をつなげる学校運営協議会にしていくことが必要だと改めて思いました。
- ・協議でいろいろな話があり、互いの実情について知ることができて有意義でした。

子どもから大人まで、「読む」楽しさをすべての人に

読書と聞くと、多くの方が「紙の本を手に取り、印刷された文字を目で追って読むこと」を思い浮かべるかもしれません。しかし、読書のかたちはそれだけではありません。点字図書や大活字本、オーディオブックなど、本の形式はさまざまで、読む方法も触れて読む、音で聴く、写真や絵で理解する、補助具を使うなど、多様なスタイルがあります。

こうした多様性に対応し、障がいや病気、使用する言語などに関わらず、全ての人が読書の楽しさや知識に触れられるようにする取組が「読書バリアフリー」です。読書は、人生をより深く生きる力を身に付ける上で欠かせないとも言われます。人生100年時代、全ての人がいつでも読書を楽しめる「読書バリアフリー」な社会の実現に向けて、私たち一人一人の理解と協力が求められています。

やさしい日本語への書き換え例



「一般的な読書」が楽しめない理由

自分に合う方法を探してみましょう(例)

目が見えない	→ 点字、音声 (DAISY図書、音訳図書、オーディオブック等)
目が見えにくい	→ 大活字本、拡大鏡や拡大読書機、電子書籍 (拡大や色の反転)
手足や身体が不自由	→ 音声、電子書籍 (ページめくりを助ける機能)
目で文字を追うのが難しい 読みたい部分に集中しにくい	→ リーディングトラッカー、電子書籍 (ハイライト表示)、音声
文章が分かりにくい (理解しにくい)	→ LLブック (短い文や写真、絵、記号等で分かりやすく読める本)、 ふりがなや読みやすいフォントを使った本
耳が聞こえない	→ 手話付き動画、マンガ (ふきだしやト書きで会話がわかりやすい)
日本語が苦手	→ やさしい日本語、ふりがな、日本語多読の本

道立図書館のサービス

■障がいのある方が使える

- ・国会図書館視覚障害者等用データ送信サービス
- ・サピエ図書館
(点字図書や音訳図書等の取り寄せやダウンロードができるサービスです。)
- ・心身障害者ゆうメールによる郵送貸出



■誰でも使える

- ・読書補助具の館内利用
(ルーペ、音声読書機、照明拡大鏡など)
- ・各種のバリアフリーな資料※
2階一般資料閲覧室には「りんごの棚」もあります。
※一部の資料は、著作権の都合上、利用・貸出とも障がいのある方に限られます。詳細は職員にお問い合わせください。

■図書館・学校向け

- ・テーマ別サポートボックス「バリアフリーセット」

点字絵本、LLブック、マルチメディアDAISY、大きな文字の青い鳥文庫など、約24点の資料がセットで借りられます。



道立図書館「高齢者・障がいのある方へのサービス」も御覧ください。
<https://www.library.pref.hokkaido.jp/web/guide/nk8et3000000007k.html>

用語解説

DAISY (デージー)

「デジタル録音図書」の規格のことで、パソコン等を使って、音声と一緒に文字や画像を表示させることができるものは「マルチメディアDAISY」と呼ばれます。



りんごの棚

スウェーデンで始まった「バリアフリー図書の棚」のことです。図書館にある“利用しやすい形の資料”を1か所に集めることで、探しやすくなります。

「りんごの棚」のロゴマークです



社会教育課では、地学協働の推進とともに、子どもの読書活動の推進に関することについても取り組んでいます。今号は、道内の2管内から、学校図書館の好事例を紹介します。

【渡島管内】 保護者・児童が参画する本に親しむ環境づくり（八雲町立山越小学校）



保護者による読み聞かせの様子

保護者による読み聞かせ会の実施

山越小学校では「みんなの読書語り」という時間を設定し、授業参観日に合わせ年3回、保護者によるおすすめ本の読み聞かせが行われています。読む本は、事前に教員と保護者と相談して種類や内容を決めており、読み聞かせ後は学校図書館に展示されるなど、児童の学校図書館利用のきっかけとなっています。また、会に参加した他の保護者が、紹介された本の魅力を知り、各家庭で購入して読むという動きもあり、家庭で本に親しむ環境づくりにつながっています。

児童が主体的に活動する学校図書館

全校児童8名の山越小では、図書委員が中心となって、読書スタンプラリーの企画・運営をしたり、開館日カレンダーの作成や購入希望図書のアンケートを実施したりするなど、児童が主体的に学校図書館の運営に関わっています。また、図書委員会では、自作のお話を絵本にする活動もしており、創作した児童本人が学校図書館で作品の読み聞かせをする機会を設けるなど、様々な視点から本に親しむ環境づくりを行っています。



自作絵本を先生や友だちに披露

【釧路管内】 読書への興味を引き立たせる環境づくり（厚岸町立真龍小学校）

居心地のいい学校図書館づくりから始まる読書活動

真龍小の学校図書館では、「くま館長」が子どもたちを温かく迎えます。本の紹介POPや読書イベントの掲示、オススメ本や季節行事に関連する装飾などが、子どもたちの興味を引きまします。また、図書館の中央部には背の低い本棚が並んでおり、子どもの視線を遮ることなく図書館全体を見渡すことができ、安心感があります。「図書館に行きたい」「楽しい」「落ち着く」が詰まった居心地のよい環境づくりに、学校司書や子ども、教職員、ボランティアなど学校全体で取り組んでいます。

多くの本との出会い、そして選書力向上へ

子どもや教職員が読んだ本を紹介するコーナー「読書伝言板」、町図書館と連携したブックフェスティバル、ボランティアの「真龍おはなし隊」や「ちいさな絵本箱」による読み聞かせなど、子どもたちが様々な本に出会えるような取組を行っています。また、自由な読書を大切にしながら、子どもが自分に合った本を自ら選ぶ力（選書力）が高まるように、内容や文章量等を分かりやすくレベル分けしたり、常駐する学校司書が本選びの手伝いをしたりしています。



“レベル分け”された本棚
上段：レベル3 内容がしっかりしている本
下段：レベル2 短くておもしろい本

題字の背景写真は、「北海道公式観光サイト『HOKKAIDO LOVE!』」

（公益社団法人 北海道観光振興機構）のフォトライブラリーから御提供いただいております。

● 掲載サイト <https://www.visit-hokkaido.jp/>

